

事業者情報



代表者 穴迫 信一

所在地 なし

ウェブサイト

<https://buru-egonaku.com/>



事業の基本情報

事業名 『〇〇をガイドする』
(〇〇には市町村名が入ります)

実施地域 未定

連携団体 未定
(予定)

Point

住民自らの記憶をもとに、地域に内在する風景を可視化する

事業概要

本プロジェクトは、福島12市町村の地域において、特定の場所に基づく住民自身の記憶や経験を起点とした演劇作品を創作・上演することで、地域に内在する時間や風景を舞台芸術の形で可視化する試みである。

選定された市町村で「〇〇をガイドする」をテーマに、公募で集まった住民が自らの思い出の場所を案内し、ツアーガイドの解説形式で個人の記憶を語る。

そのプロセスをもとに上演テキストを参加者とともに作成し、俳優が実際の場所にて上演する。

商店街や公園などパブリックな空間で、ベンチや喫茶店といった複数の場所をツアーのように移動しながら連続上演する「回遊型公演」を想定している。

演劇が外から持ち込まれるのではなく、土地と人との間で生成される形式とすることで、福島という土地の複層的な時間を住民自身の視点から立ち上げる。



事業期間中の主なイベント

Event 1

9月 ▶ 11月

ワークショップ

本プロジェクトでは、選定された市町村において、地域住民との対話を通じて演劇作品の素材を発掘することを目的としたワークショップを実施します。参加者は、自身の生活や記憶に結びついた場所を自由に選び、その場での思い出や出来事をツアーガイドのように語ります。これらの語りは、地域固有の風景や時間の層を可視化するものであり、その土地ならではの物語として共有されます。ワークショップは単なる聞き取りの場ではなく、演劇作品の創作過程そのものとして位置づけられています。参加者の語りをもとに、演出家・劇作家とともにテキストを編み上げ、演劇という形式へと転化させていきます。このプロセスによって、外部から持ち込まれる演劇ではなく、地域の内部から立ち上がる新たな表現が可能になります。また、ワークショップは地域住民が自らの声や記憶を他者と共有し直す契機ともなり、地域の再発見やコミュニティ形成にも寄与することを目指しています。

Event 2

12月

公演

ワークショップで生まれた参加者の語りや記憶をもとに、滞在制作の期間を経て演劇作品を創作・上演します。作品は「○○をガイドする」という形式を引き継ぎながら、地域の実在する場所を舞台にした回遊型の演劇として構成されます。ツアーガイドに扮した俳優が観客を案内し、商店街、公園、喫茶店、ベンチなど、複数の場所を移動しながら進行する演出を想定しています。物語の核となるのは、参加者が語った個人の記憶や体験です。それらはテキストとして再構成され、俳優によって発語されることで、地域の日常に新たな視点をもたらします。演劇作品は、単なる再現や再構築にとどまらず、土地に刻まれた時間と、そこに生きてきた人々の身体感覚を重ね合わせる試みです。また、公演の形態は地域の環境に応じて柔軟に設計され、必ずしも演劇の既存の形式にとらわれない多様な展開を模索します。演劇がその地域に「定着」することで、観客にとっても「自分ごと」として風景や記憶が立ち上がる瞬間を生み出します。最終的には、12月下旬に成果発表としての上演を行い、演劇が地域の文化や記憶にどのように根づくのかを検証する場とします。

事業全体スケジュール

